

全国からの180名の市民が感動と課題を共有・・・

“未来へのバトン”を考えた文全協第48回新潟大会！

大会テーマ 「次代に引き継ぐ文化財保存運動」

去る6月30日（金）から7月2日（日）、新潟大学医学部大講義室などを会場に文化財保存全国協議会第48回新潟大会を開催いたしました。期間中は時折強い雨の降るあいにくの天候でしたが、大会当日は約180名の参加者が全国から集い、地元新潟の市民・学生も感動と課題を共有しました。以下、その概要を報告します。

6月30日（金）

【総会】 14:30～17:00 会場：新潟大学駅南キャンパスときめいと 講義室A

全国で活動する会員が年に1度集まる全国委員会・総会です。1年間の文全協の活動をふりかえり、2017年度の運動方針を協議しました。そして、全国各地の遺跡保存問題について情報交換をしました。会員の高齢化などにもなう会員減少が続き、財政状況は予断を許さない状況です。新たな会員を増やす方法についても話し合いました。また、文全協結成45周年記念企画の『文化財保存70年の歴史－明日への文化遺産－』の完成が報告され、戦後の保存運動と文全協のあゆみを確認する本として多くの方々に読んで欲しいとの訴えがありました。（参加者31名）



県埋蔵文化財センター

7月1日（土）

【遺跡見学会】 8:30～18:00

「列島東西の境界を探る見学会～新発見や整備が進む新潟県北の注目遺跡～」と題して行われた遺跡見学会には、大型バス2台の参加者（62名）が集いました。新潟の遺跡見学を楽しみにやってきた全国の会員はもちろん、地元の参加者もたくさんいらっしゃいました。

午前中は雨模様でしたが、新潟市秋葉区の新潟県埋蔵文化財センター、弥生の丘展示館、古津八幡山遺跡・八幡山古墳を見学しました。

昼食後、天候に恵まれた午後は、胎内市の城の山古墳、奥山荘歴史館・江上館跡・坊城館跡、黒川郷土文化伝習館を見学しました。最後に、新潟市歴史博物館（みなとびあ）で新潟市の歴史について学びました。

【懇親会】 18:30～20:30

夜は恒例の懇親会。40名が交流を深めました。



古津八幡山古墳は雨の中の見学



胎内市城の山古墳での集合写真

7月2日(日)

【大会】 9:30~16:30 会場：新潟大学医学部大講義室(変更になりました)

テーマ 「次代に引き継ぐ文化財保存運動」

大会には全国の会員のほか、地元市民・研究者・学生など約180名が参加しました。講演・報告は以下の通りです。

- ・記念講演「新潟の歴史・風土と遺跡—その特質と魅力—」
坂井秀弥さん(奈良大学文学部教授)
- ・基調講演「明日への文化財保存運動の引き継ぎ」
橋本博文さん(新潟大学教授・文化財保存全国協議会代表委員)
- ・報告① 「学生が魅せる考古学～京都の博物館展示の取り組み～」
朝井琢也さん(関西学生考古学研究会・同志社大学大学院)
- ・報告② 「高校考古の課題と可能性—特に遺跡・遺物の保存と活用の観点から—」
市元 壘さん(東京国立博物館 主任研究員)
- ・報告③ 「黒耀石に未来を託して～地域と世界をつなぐミュージアム～」
大竹幸恵さん(長野県長和町黒耀石体験ミュージアム)
- ・報告④ 「火焰街道博学連携プロジェクトの15年」
金子和宏さん(南魚沼市立五日町小学校教頭)

会場内にはテーマに即したポスターセッションが貼り出され、各地の活動が紹介されました。大会の最後に「新潟大会実行委員会特別賞」として、「老松場古墳群の前方後円墳の発見と整備にかかわった小学生・学芸員・整備委員会」(長野県伊那市)に「金のバトン賞」が、「佐渡市相川小学校」と「関西学生考古学研究会」に「銀のバトン賞」を贈呈しました。

また、大会中に第18回和島誠一賞授賞式が行われました。個人部門で小井修一さん、藤並行三さんが、団体部門で「鷺城・祇園城の保存を考える会」(栃木県)が表彰されました。



【お知らせ】 感動的な大会で配布した「大会資料」(500円)の残部があります。大会報告のほか、ポスターセッションの要旨も収録しています。ご希望の方は、860円分の切手(郵便局のレターパック360円でお送りします)を同封の上、文新協事務局(木村方)まで郵便でお申し込み下さい。

----- 【参加者の感想】 -----

【見学会アンケートから】

- 新潟の遺跡はほとんど知らなかったもので、今回の見学会は見るもの聞くものすべて新鮮でした。午前中の古津八幡山、午後の胎内市、新潟市立歴史博物館と、現地での解説付きでよくわかりました。古津八幡山は、たいへんすばらしい遺跡（古墳）で、整備もよくいきとどいていました。雨の中、ゆっくりできなかったのが残念です。城の山古墳も特異な立地でした。バス中の映像で、より深く理解できました。見学会を企画していただいた実行委員会のみなさんや、各地・各施設でご案内いただいたみなさん、感謝します。新潟の地形から地域性、地元のみなさんのおもいなどたいへん学びの多かった見学会でした。（奈良からの参加者）
- 19年前の八幡山の記憶とは全然ちがって保存運動のすばらしさを思った。その中心にいた新潟の仲間たち、またその核となった甘粕健氏に心からお礼をいいたい。この八幡山のふもとに広がる美術館等、すばらしいですね。江上館の整備も行われていて、全体がわかりやすかった。なにより鎌倉時代の地頭屋敷が保存されて、うれしいプレゼント！ 車中で、砂丘列を教えられた。そのようなこと知らなかった。信濃・阿賀野両川を中心とする沖積平野が湿地であったことは知っていたが、海拔マイナスであったとは。信濃川の改修にはおどろきました。（千葉からの参加者）

【大会アンケートから】

- 考古学の専門家だけがただ文化財保護・普及に邁進するだけでなく、行政・学校などといった教育機関との連携が今後実現すべき形なのだと、今回の講演・報告で良く理解することができた。（10代男）
- 小学校の作文や体験の話をきき、伝えるのはとても大切だと思いました。専門家になってほしいのではなく、自分の考えを持ち自分の言葉で表現できるようになってほしいというような話をきき、とても感動しました。この話を忘れないようにしたいと思いました。（10代女）
- 自分自身だけでなく地域の人も巻き込んで活動している様子を知れて良かった。特に小学生から活動すると将来に関わるようで、考古学に関する様々な活動を行っていることに驚いた。全国で積極的に活動している様子に感動した。今後も気にしようと思った。文全協の活動を今まで知らなかったため、もっと宣伝すべきだと思う。文化財の保全には専門家と地域の人々（一般の人々）の協力が不可欠であるのに知らないと信用できなくて協力しようと思えないからだ。（10代女）
- 私は歴史的な背景を感じられるものに対して、興味があります。将来的に文化財に関係することができる職に就こうと考えており、様々な選択肢を模索しているところです。たとえ、専門的な仕事でなくても、行政・教師・地域民としてなど、幅広いカタチでの関わり方を知ることができました。（10代女）
- 初めて参加させていただきました。坂井先生の「どの地域にも、豊かな、かけがえのない歴史がある」ということばにとっても共感しました。今後の文全協の皆様のご活躍を祈念いたします。（40代女）
- 初めて参加させていただきました。遺跡・歴史・文化財がずっと以前から好きだったので、子育てがほぼ終了に近づき、最近やっと講演会などに参加しはじめ、まずは広く浅くでもあれこれ気になることを勉強しましたところ。楽しい時間でした。熱気があって、単に文化財保存に関してだけでなく、もっと深い思いを皆様より感じられました。何かイベントがある時にはぜひまた参加したいです。（50代女）
- 大会実行委のみなさんありがとう！ お疲れさまでした。大変実のある、有意義な内容の大会でした。次代に引きつぐ活動を各地のみなさんがされている様子を知ることができ、たのもしく感じ、力をいただきました。70年の歴史の上に立った大会だったと思います。（60代女）
- 古代のロマンほど面白いものはないが、それを発掘し紹介する人が居なければならない。そのような人を育て、伸び伸びと研究・発表してもらえるような社会構造を造れる文化国家にしなければならないと感じました。今後益々のご活躍を期待します。（80代男）
- 初めての参加で大変有意義な学習をさせて頂きました。各報告の方は、次代に引き継ぐ文化財保存に向け懸命に前向きに小学生・中学生に地域の歴史、文化財へ関心を向けさせるよう努力を重ね、関心・興味を持つよう学びの場を作る姿に非常に感嘆しました。（80代女）
- すばらしい大会となりました。ポスターセッションを含めある意味で画期的です。将来に向け、文化財保護運動の「方向性」の一つを提示することが出来たと思います。見学会でも多くの事を学びました。（80代）

文化財保存新潟県協議会・2017年度総会のお知らせ

文化財保存新潟県協議会総会(拡大運営委員会)兼

文化財保存全国協議会第48回新潟大会・第7回実行委員会を開催

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会についてお知らせいたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。文新協では、毎年、総・大会を実施してきましたが、今年度は文全協第48回新潟大会の企画・運営に取り組み、その成功のために全精力を注いできました。大会の準備のための実行委員会（小林昌二実行委員長）は昨年10月8日（土）からの8ヶ月で6回におよび、文新協運営委員や有志による準備、そして、当日は新潟大学旭町学術展示館のボランティア組織「あさひまち友の会」のみなさんや学生有志のサポートをいただき、大成功を収めることが出来ました。

そこで、今年度は大会や秋の遺跡見学会を企画することが出来ませんでした。毎年楽しみにされている参加者のみなさまには大変申し訳ありませんが、これらの行事について今年度はお休みをいただきます。ただし、2017年度の総会については、以下のように開催することとします。例年とは異なる変則的な開催となりますが、会員のみなさま、興味のある方の参加をお願いいたします。

と き：2017年12月10日（日）

と ころ：新潟市万代市民会館 302研修室

（新潟市中央区東万代町9番1号 電話：025-246-7711）

日 程：文全協第48回新潟大会実行委員会（大会のまとめ）

13：30～14：50

文新協2017年度総会（拡大運営委員会）

15：00～16：30

※事前の申し込みは不要です。当日、直接会場へお越し下さい。

なお、会議終了後の17時頃から、近くの会場で懇親会を開催します。参加を希望される方は、メール・ファックスのいずれかで事務局（下記）までお申し込み下さい。

編集後記

19年ぶりに新潟での開催となった文全協大会を無事に終了することが出来ました。あいにくの天候の中、県内外からたくさんの方にご参加いただき、大会を盛り上げていただきました。中でも、新潟大学の学生さんたちの参加が大会の雰囲気をもっと明るくしてくれました。また、大会開催に際し多くのみなさんにご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。そして、“未来へのバトン”を若い人たちに引き継ぐために、文全協の会員を増やすことも重要です。みなさまのご入会をお待ちしています。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）

電話：090-2735-5536

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/

文全協のホームページ
もぜひご覧ください。